

# 湘南学園だより

No.101

行 学 より 部  
発 南 學 園 集

「生徒たちが主人公」を  
めざす湘南学園

学園長　藤岡　尚彦

本年6月24日、湘南学園中学校、  
学校説明会が午前10時、古市好文校  
長の懇切な学園の歴史と現状につい  
ての説明で始まりました。

つづいておこなわれた「生徒会アワ  
ー」の15分間で、湘南学園では「生徒  
たちが主人公」となっていることを私  
は確信しました。在校生たちが、生  
徒会行事のスライド上映とスピーチ、  
クラブ紹介を行って、「カエルカム・バ  
ベキュー」「第2回新体育祭」の企画  
実施、「学園祭」と「合唱コンクール」  
への期待を述べたのです。圧巻でした。  
入試説明会の事でした。15分の「生  
徒会アワー」が終ると、なりやまぬ  
拍手でした。来会者の皆さんには、生徒  
たちがなんと生き生きとしたしゃべ話  
発にまなんじるのだとう、と思って  
下さったことでしょう。これ以上の学  
校PRがあるでしょうか。

新入生歡迎会について.....

この行事は、毎年4月に入学している  
新入学生のために、MINTO(ミント)の  
キャラクターがやりたくて、何處も何處も会  
うる所で、おこなわれるようになりました。

ウエルカム・B.D.Q(バーベキュー).....

今年の中には、中一・二年生の(バーベ  
キュー)がやりたくて、何處も何處も会  
うる所で、おこなわれる所が作成されました。

の実行委員会が中心となつて様々なゲ  
ームなどを用意します。春休み前から、  
この実行委員会で「体今頃の小学校高  
学年から中学年生あたりでは何がはや  
いこじるのか?」などをみんなが考えてお  
す。そして今年は、テーマを「青春の春」  
とこのアーワー全体をバトル桂花を  
利用して、テーマの中にこじるものが教訓  
を施し、とにかく楽しむのを作りたいと思  
います。

そつて「口でやせても、身校生間にあり  
てわかるため、簡単に紹介の上、それを  
満したり、行事の趣種を知りたいので  
あります。」トオ紹介後は、各自がマイクを持  
つて、自分の学年や、何が何  
かの活動などをしてみる。本当に積極  
的に「これは、これがいい!」などと喜んで  
いた。

また、実際に吹奏楽部の演奏や、大正音  
楽の披露などにより、より開拓する意図と  
を感じました。たまたま田の原君が、かわ  
いと湘南学園という学校のつぶつと  
おもひがわかったりおこなつた。

「いや、「私たちが毎年入るといふ」とお  
おもひたがうに、湘南学園の体育祭は開拓に  
おもひたがうに、内密などおもひ

おもひたがうに、自然と先生  
と後輩のゆきゆきゆき、懇親的で、毎年  
の事を通じて、出るところは感じ  
てもらつた。また、「合唱コンクール」に  
おれども、湘南学園の体育祭は開拓に  
おもひたがうに、これまでおもひたがうに  
おもひたがうに、それが何よりも大切だと  
思つた。

このあと、スピーチは、「学園祭につ  
いて」、「合唱コンクールについて」  
などですが、秋から冬にかけて  
の「学園祭」や「合唱コンクール」に行  
つてみたいと思つて、さうしたちがい  
ありません。「生徒たちが主人公で  
ある学校」は、生徒のがのびのびたの  
しゃ先生と生徒が共に生きる明  
るい学校なのです。「生徒会アワー」  
には十数の価値があります。

湘南学園だより

(1) 平成18年9月11日発行

## 『年少組での1学期を終えて』

年少組(もも組)担任 滝鍋ありす

ももさんが朝の支度をしていると「折り紙でやっこさん作つたんだよ、先生にあげる!」と言つてさくらさん(年長児)がお部屋に入つて来る事がよくありました。

さくらさんが手に持つてある物がきっとももさんには宝物のよう魅力的だったのでしょう。さくらさんが何かを作つて私の所に来る度に、ももさんは「僕も欲しい」「私も」と私に言つてきました。

「もうひとつ作つてもらえるか一緒にお願いしてみようか。」「お兄さん、ももさんもこれが欲しいみたいなの。もうひとつ作れる?」などと、ももさんの気持ちを代弁しながら様々な場面で異年齢のつながりも大切にしてきました。

このような経験を重ねていくうちに、さくらさんが自分からももさんに「あげようか?」と声を掛けたり、ももさんも自分から「ちようだい」と頼んだり、「それじゃ作り方を教えてあげる!」「うん!」などと言葉を交わすようになりました。

私がいつも機渡しをしなくとも、さくらさんが自然とももさんをリードし、子ども達同士で関わる事

が出来るようになってきた姿をとても微笑ましく見守っています。

1学期、園庭や玄関で盛んに行われていたあそびの中に電車ごっこがありました。その中で、こんなものもさうの姿が見られました。

さくらさんが電車ごっこをしている所をたまたま通りかかると、ちゃんと電車に乗る子や、「ももさん電車に乗る?」「おいで!」「切符売場はこちらです!」「お待たせしました、どちらまで?」とさくらさんにリードされて入る子、友達が「電車に乗ったの!」と嬉しそうに手に持つている切符をヒラヒラさせていた姿を見て「私も!」と入る子、「先生も電車に乗りたいな!」「東京行きの切符をください!」などと言つて一緒にあそんでいる保育者の姿を見て入る子、まだそのあそびを知らない子ども達に「子ども文庫の所に行ったら電車に乗れるよ!」「電車に乗つてピクニックに行こうか!」などと言葉を掛ける保育者に誘われて入る子など、様々でした。

このように、あそびの仲間にいるまでの間にもこれだけたくさんのかかけがあります。

クラスにとどまらず、いろいろなクラスの友達や全スタッフと言葉を交わしたり、声を掛けられたことがあります。そして、このような環境の下で子ども達はたくさんの経験を重ね、それが土台となつて大きくなつていくのだと思います。

今年度、年少組は2クラス40名でスタートしました。

登園時間が全学年同じになり、出入口もトトロの門からとなつた事で、ももさんにとっては園庭のすべり台や、年長児・年中児が遊ぶ姿、さくらさんがうきぎをお世話する姿がとても身近に目に出来るようになりました。

好奇心いっぱいのももさんは、自分の目に映つたものに吸い込まれていくようにあちらこちらに出掛けていきます。そこでもたくさんのお兄さん・お姉さんや保育者に声を掛けられ、たくさん刺激をもらつているのです。

1学期、そのような環境の下で園生活を送つてきた子ども達、一人ひとりがその子なりにいろ

いろな事を感じ、経験してきました。その経験を経て2学期、子ども達がどんな姿を見せてくれるかをとても楽しみにしています。



「さくらのお兄さん、電車に乗せて」「いいよ!」



## 『みんながいるから大丈夫!』

—お泊り保育— 年長組担任 稲川 仁美

ドキドキ胸にワクワク感! 楽しみだけれど、ちょっと不安...。そんなさまざまな気持ちを胸に、子どもたちにとつて初めての体験となる年長児のお泊り保育が、七月六日(木)・七日(金)に行われました。

学年集会やクラスで「どんなお泊り保育にしたいかな」と投げ掛けると、「食べる所があつたらいいんじゃない?」「どこでねるの?」「お風呂は?」という疑問の声から、「おねしょしちゃつたらどうしよう」「起きなかつたら?」「お家に帰りたくない?」「どうでねるの?」「お風呂で?」など、心配事や不安に思う気持ちも出てきました。友だちのいろいろな話を聞く中で、自分の体験を伝えたり、「みんながいるから大丈夫!」等、子どもたち同士で解決しようとする姿が見られ、一つひとつを安心に教えていたようでした。

また、自分たちの力でお泊り保育を進めていく為には、一人ひとりが責任を持つて係りの仕事に取り組むことが大切です。お木とぎ、お買い物、夏祭り、夜のレストラントン、布団敷き、お風呂、朝のレストランの七つの係りの中から、自

分で係りを決めました。係りの仲間「コフタさん」の帽子を作りたい!」「お風呂屋さんの入り口が分かるようにのれんを作ろうよ!」「チケット作つたらどうかな?」「雨が降つても、買いたい物に行かない」とカレーが食べられないね」「いらっしゃいませつて言いたいな」「布団敷きの練習しようよ」等、話し合いを重ねながら、お泊り保育に向けて準備を行つてきました。

湘南学園幼稚園のお泊り保育は、子どもたちみんなが「湘南学園おもしろホテル」のお客様でもあり、スタッフ(従業員)でもあります。友だちや先生と泊まる楽しさを味わう事はもちろん、身の回りの事を自分でしたり、友だちと協力しながら係りの仕事に取り組みます。

いいよい当日、この日はいつも通りなれた幼稚園が、「湘南学園おもしろホテル」に大変身! 年少さん、年中さんが、お兄さん、お姉さんの為に飾り付けをしてくれた素敵な海の食堂や庭園に造られた大きな露天風呂は、すぐにみんなのお気に入りの場所になりました。まず、スタッフ(従業員)として

の最初の仕事は、カレーの野菜切りです。全員が体験出来るよう前に、にんじん、たまねぎ、じやがいの中から、自分で一つ野菜を作りました。皮をむき、包丁で切つた後、「おいしいカレーになあれ」とおまじないをかけて...どの子も真剣に取り組んでいました。

午後からは、それぞれ係りの仕事を取り組みます。時間になると「じゃ、行ってくるね」と、意気揚々と出かけて行く友だちに、「頑張ってね」「よろしくね」「気をつけてね」と言葉をかけ、仕事が終わり戻ってくると「ただいま」「おかえり」という、あたたかい言葉のやりとりが聞かれました。

また、家族と離れて泊まる事に段々と不安が募り、涙を浮かべる友だちに「みんながいるから大丈夫だよ」と、優しく手を取り、そっと髪にいる姿からも、友だちのあなたさを感じたり、普段と変わらない事でも、初めての事のように新鮮に感じ、友だちと触れ合う中で、今まで気付かなかった力や新しい一面を発見し、新たな伸びが生まれているようにも感じました。

やる姿や、あたたかい言葉のやりとりができる子どもたちの姿を見て、とても嬉しく、何て素敵なんだろうと思いました。言葉では言い表せませんが、一晩明けると、子どもたちの表情はたくましく、どの子もお兄さん、お姉さんの顔に見えました。

「みんながいるから大丈夫!」を合言葉に、友だちと一緒に過ごした時間や、いろんなことに挑戦したこと出かけて行く友だちに、「頑張ってね」「よろしくね」「気をつけてね」と言葉をかけ、仕事が終わり戻ってくると「ただいま」「おかえり」という、あたたかい言葉のやりとりが聞かれました。

また、家族と離れて泊まる事に慣れるために、友だちのあなたさを感じたり、普段と変わらない事でも、初めての事のように新鮮に感じ、友だちと触れ合う中で、今まで気付かなかった力や新しい一面を発見し、新たな伸びが生まれているようにも感じました。



## 小学校募集活動について

総務主任 林田 英二郎

小学校の募集活動は十月下旬（本年は十月二十四日）の入学試験日に向けての取り組みが中心となります。

入学定員は一〇八名ですが、例年六〇数名は学園幼稚園より進学しますので、校外からの入学はおよそ五〇名になります。現在定員は確保できているものの、私立の小学校としての認知はまだ十分でないようです。

そこで学園小学校を外部の方に広く知つていただく活動をしていきます。その活動は校務主任を中心とした店舗委員会がおこないます。

### 〈学校説明会〉

学園小学校について理解を深めていたためには、日常の学校や子どもたちの様子をご覧いただこうと一番であると考え、公開授業もあわせておこなう学校説明会を募集活動の核と考えています。

本年の学校説明会は、  
六月十七日（土）  
九月十六日（土）  
の実施です。



### 〈私学情報フェア〉

ここ数年幼稚教室の主催する入學説明会へも積極的に参加し、学園小学校への理解を少しでも広げる活動をしております。その一つに「私学情報フェア」への参加があります。数年前までは横浜でのフェアのみの参加でしたが、本年

は横浜高島屋・ランドマークホール・川崎・大船・青葉台の五会場に参加し、多くの方に湘南学園を知つていただく機会となりました。まずは湘南学園小学校という名前を知つていただき、会場で直接お話をさせていただくことで、学園小学校の特色ある活動に興味を持つていただくことができたと感じています。

公開授業は全クラスで行い、自由に教室に入つていただき、なかには入学希望の参観者が授業に参加していただく場面もあります。公開授業の後にはスライドを交えて学園小学校や学園生活について説明します。授業ではお見せすることができない野外での活動も、子どもたちの作品やスライドで紹介をしていきます。

特に総合学習は小学校の学習活



園を知つてもらうきっかけづくりをしています。

これ以外にもタウン紙（タウンニュース・小田急沿線新聞）や毎日小学生新聞などに交歓会や地引き網などの行事の様子を掲載していただいたらしくあります。

こうした活動の成果もあって、近年は多くの方々に学園小学校の特色を示す重要なものと考えています。

この日々の学園生活の姿を発信しているホームページも、多くの方に学園小学校の活動に关心を持つていただくための重要な募集活動に位置づけられます。

今後とも学内はもとより、学外からもより関心をもつていただき、学園小学校の活動をより広く伝えていく活動を展開していくたいと考えています。

## 一年のはじまり “交歓会”

笠井多香子

四月二十六日、今年も新一年生の入学を歓迎して、片瀬西浜の海岸で交歓会が行われました。今年は第三十四回を迎え、刻々と歴史が積まれ伝統ある行事のひとつとなっています。

今年度の日程は昨年度よりやや早まり、四月たちあがつたばかりの執行委員会をはじめ、高学年は一週間という短い限られた時間の中で作業・全学年での話し合いが持られました。

まず、児童会の中心である執行委員会で、今年度の交歓会の目標を考えました。「みんなで協力して取り組み、一年生といっしょに楽しもう!」と掲げ、どんな作品テーマにしようか悩みました。出されたテーマは、次のようなものでした。家の中のもの・空想のいきもの・森の中のいきもの・海のいきもの・浜辺のいきもの・水族館・顔・宇宙人・乗り物・食べ物・花…というどれもユーモアがあり、ワクワクするものばかりでしたが、暫くすると、「テーマを『顔』にしたら、全ての班が同じように重なって面白くないんじゃないかな?」「ひとつずつからそれぞれの

班がひらめくものがあった方が面白そうだよ。」という考えがあがり、今年は、「空想のいきもの」になりました。しかし、テーマが決まつたとはいえ、どんなものが案としてあがるのか…、イメージが広がりすぎて收拾がつかなくなってしまうのではないかとの懸念の声もあがり、三つのポイントを累加しました。一つ目として、昔話や伝説などの物語に登場するいきもの。「二日目として、話題の本「へんないきもの」から抜き出したいきもの。三つ目として、ある動物と動物を組み合わせたいきもの。この三つをポイントにおきながら、十八班それが考え、当日完成した作品を紹介します。

十一班・とせいさん  
十二班・カツバ  
十三班・スヌーピー<sup>1</sup>  
十四班・キッコロ  
十五班・ピクミン  
十六班・トトロ  
十七班・ヤマタノオロチ  
十八班・竜

当日は、数日間続いた雨で実施が心配されました。しかし、空も私たちの一年のはじまりを歓喜してくれたかのように天候にも恵まれました。執行委員長の元気な挨拶を基調に、新しい小さな仲間の手を携えて、海岸へと向かいました。到着し、開始の合図とともに、浜に駆け出す子どもたち、リーダーの声に耳を傾けて砂を握り始める子どもたち、変わっていく真剣な眼差しが、とても穏やかに見えました。中には、「先生、今何時ですか?お腹が空いた」と腹時計が鳴ってしまった子どもも…。また、終了時間のカウントが聞こえると、「あと、〇分だよ!」「だいじょうぶだよ!」と学年隔てなく温かな声を掛け合う様子も見られました。

- 一班…ユニコーン
- 二班…フェニックス
- 三班…かお
- 四班…ヤマタノオロチ
- 五班…ドコモタケ
- 六班…フライング・リザード
- 七班…ユニークーン
- 八班…ネッシー
- 九班…空と原風景
- 十班…カツバ



その後のゴールデンウイーク明けのある日、表彰式が行われました。そこでは、各班の各賞の発表と、表彰状が各班担当の先生方から子どもたちに渡されました。今年度の、各賞の発表は、校舎の三階から垂れ幕をおろすという形でした。子どもたちは、自分の班はもちろん、それぞれの賞の名前に微笑みながら、降りてくる垂れ幕に待ちきれない様子でした。

毎年、子どもたちの間でのお楽しみは、執行委員会特別賞です。今年は、十二班のカツバでした。執行委員長の言葉に、「立体的にカツバを作り上げたという斬新さを称えて!」とありました。十二班はもちろん、本当にどの班も甲乙つけ難いものでした。手をかけて作った作品は、僅くも崩れてしまいますが、そのときまでにかけた力と思いは、子どもたちの一生の宝物になるにちがいありません。

その後のゴールデンウイーク明けのある日、表彰式が行われました。そこでは、各班の各賞の発表と、表彰状が各班担当の先生方から子どもたちに渡されました。今年度の、各賞の発表は、校舎の三階から垂れ幕をおろすという形でした。子どもたちは、自分の班はもちろん、それぞれの賞の名前に微笑みながら、降りてくる垂れ幕に待ちきれない様子でした。

毎年、子どもたちの間でのお楽しみは、執行委員会特別賞です。今年は、十二班のカツバでした。执行委員長の言葉に、「立体的にカツバを作り上げたという斬新さを称えて!」とありました。十二班はもちろん、本当にどの班も甲乙つけ難いものでした。手をかけて作った作品は、僅くも崩れてしまいますが、そのときまでにかけた力と思いは、子どもたちの一生の宝物になるにちがいありません。



## 貴重な現地での“体験” 第2回カナダセミナーを終えて



中高 緒方 哲也

昨年度から始まったカナダセミナーは、今年も7月23日から8月5日までの2週間、昨年と同様の地、カナダ・アルバータ州南部のエアドリー・カルガリー地区で実施されました。今回の参加者は中3が12名、高1が18名、高2が13名の計43名の生徒と、私以外に友田先生と長谷部先生の3名の教員が参加しました。エアドリー地区はこの時期、日没が午後9時30分頃。午後8時を過ぎても昼間のように明るく、澄みきった青空を吹き抜ける爽やかな空気はとても乾燥していました。明け方の気温が10℃前後まで冷え込む一方で、晴れた昼間は日差しも強く、気温が30℃近くになる日もありました。

さて、今回のカナダセミナーは昨年と同様に、午前中はミドルスクールの校舎と教室を借りて、現地の先生による英語のレッスン。午後はエアドリー近郊へと出かけました。黄色いスクールバスを貸し切って、現地でしか見られない美しい渓谷や恐竜博物館、リテラジバークや巨大なショッピングモールにも足を運びました。

生徒達にとって一番印象に残ったのは、ホームステイ先のホストファミリーの方々や、2週間ずっと自分達のことを見守りながらアシストしてくれた現地の中高生との出会いでしょう。今回生徒のホームステイ先を提供してくださったのは計36の家庭でした。「自分達のもてなしが十分なのだろうか…」と、こうそり私達教員に相談してきた彼らの家族。「ホームシックにかかるては大変!」つと、生徒がリラックスできるよう、休日にカナダの雄大な景色を見せに行ってくれた家庭。「あなたは私達の親友であり家族でした」と、さよならパーティーで涙の止まらない生徒をいつまでも抱きしめてくれた家族の皆さん…。こんなにも生徒のことを思い、最高の愛情を注いでくれたホストファミリーの方々には感謝の言葉もありません。こうした感謝の気持ちちは、私達以上に生徒の皆さんも感じ取ってくれた」とぞしょう。

そして、お互いの言葉が通じなくても、楽しく有意義な時間を共有することができた。自分たちと同じ世代である現地の中高生達との出会いも素晴らしい経験でした。最初はお互いに緊張していたせいもあって、何となくぎこちなく過ごしていた生徒達でしたが、2日も経たないうちに、まるで兄弟みたいにじやれ合っている彼らを見て私達も安心しました。

日本語や英語が混じり合って、お互いの言葉を教え合ったり、時間を決めて待ち合わせをして、近くの室内ブルームで出かけた生徒達もいました。たつた2週間ではありますましたが、その期間で知り合った家族や友人、現地の先生とは、日本に帰国後早速毎日のように英語でのメールでのやりとりをしているという生徒の話も耳にしました。「難しいけど英語でメールを送らなくちゃ」と言う気持ちがあつたからこそできることがありますね。食文化や自己を表現することなどでは、カナダと日本との「異文化」をイヤというほど経験したのですが、「異文化」という「障壁」をいつも簡単に乗り越えてくれたホストファミリーや現地の方々、そして今回参加した学園の生徒達の姿があつたことを本当に嬉しく思います。

今回参加した生徒諸君には、カナダで経験したこととこれから学校生活や自らの人生においても大いに生かしてもらいたいと思っています。是非ともこうした取り組みを今後も続けていくことが大切であると思いつつ、出来れば近い将来、現地の中高生との「交換留学」についても実施すべきではないかとも思っています。今回も多くの方々が、カナダでの笑顔に満ちた写真を眺めながら暑い夏を過ごしましたことでしょう。本当に貴重な「体験」をみんなで共有することができます。



# 学 校 法 人 業 務 報 告

今 後 の 預 定

## 【理事会開催状況】

## 第八回定期理事会

- 七月一十九日
- 各委員会報告
- 学事報告
- その他

## 【評議員会開催状況】

- 五月二十七日（土）
- 平成十七年度決算報告
- その他

## 五月二十七日（土）

- 平成十七年度決算報告
- その他

## 七月一十九日（土）

- 平成十七年度事業報告
- 規約類改定経過報告
- 平成十八年度事業計画
- その他

## 「学校法人湘南学園教育費援助」

- 第六回国定期理事会
- 七月一日（土）
- 各委員会報告
- 学事報告
- その他

## 第七回国定期理事会

- 七月八日（土）
- 貢献金中の修繕工事等について
- 評議員会報告事項等について
- 学事報告
- その他



30	27	24	23	19	16	15	13	10	8	6	3	30	20	19	16	14	13	12	9	8	5	1	
日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	
幼	小	小	中	高	幼	中	高	中	高	中	高	中	高	幼	中	高	幼	中	高	幼	中	高	
第七回国定期理事会					第七回国定期理事会																		
七月八日（土）					七月八日（土）																		

湘南学園では昨年の八月に教育費援助に関する制度が出来ました。この制度は校納金など学費を援助していくことを目的として出来た制度です。詳しくは事務室までお問い合わせください。

- 貢献金中の修繕工事等について
- 評議員会報告事項等について
- 学事報告
- その他

[9月]

[10月]

[11月]

21	19	18	16	15	14	11	9	4	3	2	1
日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日
中	高	小	幼	中	高	小	幼	高	中	高	小
入学試験・児童体操 (~25日)	高2研修旅行(~27日)	秋の遠足(少年中休園)	休園・幼稚園説明会	入試説明会(1)	面談(~7日)	たいいく表現まつり	後期始業式・授業開始	前期終業式・大掃除	防災引き渡し訓練	外部公開授業・説明会	2学期始業式
学年活動の日	連絡訓練(地震)										

[12月]

[1月]

[2月]